

## 公表論文

### 査読付き論文

- [1] Agora: A Remote Collaboration System that Enables Mutual Monitoring, Hideaki Kuzuoka, Jun Yamashita, Keiichi Yamazaki, Akiko Yamazaki, *Proc of CHI'99 Extended Abstract*, pp. 190-191, 1999.
- [2] Agora: Supporting Multi-participant Telecollaboration, Jun Yamashita, Hideaki Kuzuoka, Keiichi Yamazaki, Akiko Yamazaki, *Proc. of HCI Int'l '99*, Vol.2, pp. 543-447, 1999
- [3] 相互モニタリングが可能な遠隔共同作業支援システムの開発, 山下 淳, 葛岡 英明, 山崎 敬一, 山崎 晶子, 加藤 浩, 鈴木 栄幸, 三樹 弘之, 日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol. 4, No. 3, pp. 495-504, 1999

### その他公表論文

- [4] 共同学習を支援するためのツール「アルゴカード」の開発, 情報処理学会研究会報告, 97-GW-23,ISSN0919-6072,1997
- [5] 臨場感のある遠隔共同作業空間の構築, 山下 淳, 葛岡 英明, 山崎 敬一, 第14回ヒューマン・インタフェース・シンポジウム論文集,pp.463-468,1998
- [6] 遠隔共同作業における身体配置の再構成, 山下 淳, 葛岡 英明, 山崎 敬一日本バーチャルリアリティ学会第5回大会論文集,2000

- [7] 机型ディスプレイのためのペン型触覚フィードバックデバイスの開発, 沼田啓, 葛岡 英明, 山崎 敬一, 山下 淳, ヒューマン・インタフェース・シンポジウム (HIS)2000 論文集, pp. 447-450, 2000.
- [8] AgoraG:遠隔操作型レーザーポインタと書画カメラを備えた遠隔共同作業支援システム, 山下 淳, 葛岡 英明, Paul Luff, 山崎敬一, 山崎 晶子, ヒューマン・インタフェース・シンポジウム (HIS)2001 論文集
- [9] 実世界を指向した遠隔共同学習機の開発, 山下 淳, 井上 直人, 葛岡 英明, Paul Luff, 山崎 敬一, 日本バーチャルリアリティ学会研究会報告 (サイバースペースと仮想都市研究会), Vol. 7, No. 1, CSVIC 2002-05, pp. 27-32, 2002.
- [10] 直接的な指さしを支援する書画カメラシステムの構築, 井上 直人, 山下 淳, 葛岡 英明, 山崎 敬一, 情報処理学会ヒューマンインタフェース研究会, 2002.

## 投稿中の論文

- [11] Ways of the hands: reaching out of media spaces to configure collaborative environments of action, Paul Luff, Christian Heath, Ella Tallyn, Hideaki Kuzuoka, Jun Yamashita, *Proc. of ACM Conference on Computer Supported Cooperative Work 2002*.
- [12] Supporting paper mediated video conference with Agora system, Jun Yamashita, Hideaki Kuzuoka, Paul Luff, Christian Heath, Keiichi Yamazaki, *Video Proc. of ACM Conference on Computer Supported Cooperative Work 2002*.

## 謝辞

本研究は、筆者が1999年4月から2002年3月までの間、筑波大学博士課程工学研究科在籍中に行ってきた遠隔共同作業支援システムに関する研究をまとめたものである。

本研究の遂行にあたっては、筑波大学機能工学系葛岡英明助教授からは、直接の指導者として、公私共々細部に渡るご指導、ご鞭撻を賜わった。ここに深甚なる感謝の意を表す。

筑波大学機能工学系 安信 誠二 教授、同学系 鬼沢 武久 教授、同学系 岩田洋夫 教授、同学系 矢野 博明 講師からは、論文を執筆する上での貴重なご助言を賜わった。ここに深い感謝の意を表す。

埼玉大学教養学部 山崎敬一 教授、メディア教育開発センターメディア教材研究開発部門 加藤 浩 助教授、茨城大学人文学部コミュニケーション学科 鈴木 栄幸 助教授、沖電気工業株式会社研究開発本部 三樹 弘之 氏、ならびに公立ほこだて未来大学情報アーキテクチャ学科 山崎 晶子 講師からは、筆者が修士課程に在籍している時から、社会学的な評価やシステム構築に関し、数多くのご指摘を賜わった。ここに深い感謝の意を表す。

英 Kings College London の Paul Luff 博士からは、社会学的な評価手法を用いる際の実験方法から、本研究に対するアイデアの提供、そして英語の指導まで、公私に渡ってご指導頂いた。ここに深い感謝の意を表す。

本研究はまた、良き同僚と後輩の協力を得てはじめて成し得たものである。筆者と時期を同じくして博士論文を執筆した 小山 慎哉 氏からは、システムの評価手法などに関し、様々な指摘を頂いた。沼田 啓、鈴木 雅史の両氏には、本研究の初期に作成したシステムの構築に協力して頂いた。井上 直人 氏にはレーザポインタユニットの作成と評価に関し、大部分を手伝って頂いた。その他研究室の構成

員からも、数値的な評価手法に対する助言から、夕食時のブレインストームに至るまで、研究成果に繋がる様々な指摘を受けることができた。ここに深い感謝の意を表す。

筆者は、1999年4月から2002年3月までは、日本学術振興会特別研究員として、研究奨励費、ならびに科学技術研究費(特別研究員補助金)の給付を受けた。また、研究設備を利用に関しては、独立行政法人通信総合研究所、通信・放送機構つくば情報通信研究開発支援センターからの支援を受けた。これらの援助に対し、ここに記して感謝する。

本論文での研究成果は、まさに共同活動によって生まれたものである。ここで謝意を表した方以外の多くの方からも、筆者の研究活動に対しご支援、ご鞭撻を受けている。その方々に対し、心からの感謝の意を表し、謝辞としたい。